

5月7日(木曜日)「ソロモン(9)信じ難い背信」

【新改訳 2017】

## I 列王記 11・1－43

「……『見よ。わたしはソロモンの手から王座を引き裂き、十部族をあなたに与える。しかし、彼には1つの部族だけが残る。……彼がわたしを捨て……アシュタロテ……を拝み……わたしの道を歩まなかったからである。』」(31-33節)

これは、主(「わたし」)がソロモンの家来やヤロブアムに、預言者アヒヤを通して語られたことばです。最も、先にソロモンに語られていたことでした(2 - 13 節)。

あれほど祝福されてきたソロモンが、晩年になって大きく道を踏みはずして、背教の生活に墮落したのです。王国も分裂することになりました。

- ① 直接の原因は、王妃やそばめとしていた多くの外国人の女たちのそのかしでした。でも、どうしてあの知恵と信仰の力のソロモンが主に従い通さなかったのでしょうか。ここでも人間の弱さを見ます。年を取って弱気になったのでしょうか。加えて、
- ② 権力と裕福が靈性を損ない、肉の欲望の満足に走らせたとも思われます。心が神を離れて、もっと幸せになることはありません。

今、私たちの心はどうでしょうか。

～祈り～

主よ。あなたから離れて、あなたのみこころのうちに歩むことは、私たちにできません。どうぞ、御霊の助けを得させてください。

**【学びのために】**

5月5日の日課、ヨハネ 15 章 1-8 節参照。(一つの部族)とは、ユダ族と共に南ユダを継承したベニヤミン族。